

伊達市の切花生産者・野田さんにお聞きしました

（伊達市農業の概要）

伊達市は、温暖な気候で積雪量が少ないことから「北の翔南」と呼ばれています。無いものは無いと言われる農業は、多品目・長期出荷の園芸作物の栽培が盛んで、主に水稲や畑作物、畜産との複合経営です。

中でも、古くから行われている野菜の作付面積は1,600haに達し、道内での主要な野菜の供給地帯となっています。

この伊達市北稀府町で花き専門経営を行い、「伊達市切花生産組合（組合員数19戸）」の部会長でもある野田知嘉（のだ ちよし）さんにお話をお聞きしました。

（花き専門経営へのきっかけ）

野田さんは、元国家公務員で主に当時の郵政省で施設整備のお仕事をされていたようですが、農業に憧れて、平成9年、30歳の頃、当時の洞爺村の野菜農家等に研修に入り、翌年、現在の場所に就農されました。

（経営の特徴）

経営規模は、49a、ハウス14棟。年間を通じて需要が堅調なカーネーションとソリダコが約8割を占め、その他グラジオラスなど、切花専門経営をされています。ご家族は野田夫妻、臨時雇用は年間延べ約400名雇用しているほか、農繁期には実家のご両親も選別作業などをお手伝いされるそうです。

栽培で留意している点は、土壌病害・害虫対策として、冬期間に太陽光による土壌消毒を一週間ほど行っていることや、有機質発酵資材を積極的に投入していること。また、花の収穫は、必ず蕾に色が着いた頃に行い、特にソリダコは開花してしまうと、日持ちが短いので注意していると話されました。

規模拡大について伺うと「現在の安定した経営を続けたい」と答えられ、健全な経営を志す、慎重な人柄を感じました。

近年、切り花の価格は、以前に比べ低調であり、特に贈答用などで購買単価が低下しているとのこと。これに対応するため、出荷量を増やしているようです。

これまで花を栽培したことがない方が就農したということで、相当の苦労があったと思われそうですが、試行錯誤を重ねた結果、現在は軌道に乗り、安定出荷が続けられています。

（伊達市切花生産組合の概要）

伊達市の花栽培は温暖な気候、長い日照時間、雪が少ない地理的条件から、栽培される品目が多く、切り花をはじめ、鉢物、花壇苗などが早春から栽培されています。

伊達市切花生産組合は、現在19戸で構成。主な作付品目は、グラジオラス、トルコギキョウ、デルフィニウム、カーネーション、ソリダコ、スナップ（きんぎょそう）などで、主に室蘭花き市場を通じて、室蘭、札幌など道内に出荷されています。



出荷待ちのソリダコ



切花専業農家 伊達市 野田智嘉氏



出荷待ちのカーネーション



切花生産組会出荷ケース

(取材を終えて)

野田さんのお宅を訪問するのは、今回が二度目。最初は昨年8月に開催された「北海道花き連合会現地研修会」の出席者の一員としてお伺いしました。

取材の中で、「日持ちする花を作るには、土づくりがすごく大切」、また「病気や虫に強い花を育て、農薬を使わないよう努力している。」という言葉が大変印象に残りました。

現在の課題は、夏の高温と、春先や秋口に加温するための燃料が高騰していることですが、「毎年変化する環境に対し、試行錯誤しながら出荷時期を調整し、日持ちの良い花を消費者の届けたい」とおっしゃっていました。

(平成25年6月取材 胆振総合振興局農務課)